

十一月二十二日 八幡市役所 日本鐵鋼協會 聯合通俗講演會 (午後六時半開會)

會場 八幡市高等女學校講堂に於て (電車「中央區」停留場下車)

開會之辭		八幡市長	新	開	滯	觀君
本邦製鐵鋼業振興策	三菱製鐵株式會社取締役 日本鐵鋼協會理事	工學博士	河	村		曉君
平易なる鐵の話	八幡製鐵所技監 日本鐵鋼協會評議員	工學博士	野	田	鶴	雄君
本邦古來の製鐵方法に就て	東京帝國大學工學部教授 日本鐵鋼協會理事	工學博士	俵		國	一君
閉會之辭	日本鐵鋼協會々長	工學博士	鹽	田	泰	介君

第三日 十一月二十三日(火曜日祭日) 講演會 午前八時半開演

會場 八幡製鐵所職工養成所講堂

講演 (午前之部)

- (10) 黄銅加工品の時期割と結晶粒との關係並に低温燒鈍の影響
東京電氣株式會社 中 上 義 勝君
- (11) 高温度に於ける鋼の粘性に就て
吳海軍工廠製鋼部海軍造兵大尉 工學士 佐々川 清君
(休憩十分間)
- (12) 健全なるインゴットの鑄流を目的とする酸性平爐製鋼法に就て
陸軍造兵廠大阪工廠彈丸製造所長砲兵中佐 工學士 林 狷之介君
- (13) タングステン鋼の組織に就て
東北帝國大學金屬工學科教授 工學博士 村上 武次郎君
工學士 武田 修三君

晝食 (同所内に於て)

講演 (午後之部) 午後一時開演

- (14) 炭酸鹽の滲炭速度増加の原因に就て
東北帝國大學金屬材料研究所 工學士 高橋 源助君
- (15) 燒戻硬化の現象に關する研究
日本特殊鋼合資會社技師 理學博士 松下 徳次郎君
永 澤 清
(休憩十分間)
- (16) 薄板の製造に就て 川崎造船所技師 小田 切延 壽君
- (17) 古代鑄錢の型範に就て
九州帝國大學工學部教授 工學博士 金子 恭輔君
(休憩十分間)

(18) On the cause of temper-Brittleness of Steel

東北帝國大學金屬材料研究所々長 理學博士 本 多 光 太 郎君
工 學 士 山 田 良 之 助君

(19) 製鐵所作業活動寫真 午後四時—午後五時 製 鐵 所
九州巡迴活動寫真

閉會之辭 日本鐵鋼協會會長 工學博士 鹽 田 泰 介君

懇親會 午後六時開會

會場 門司市門司俱樂部に於て

第 四 日 十一月二十四日(水曜日) 工場見學

第 一 班 午前八時までに電車戸畑支線「泥田」停留所に參集之事

I 東洋製鐵(戸畑) 午前八時——午前九時半

II 明治専門學校(戸畑) 午前十時——午前十一時半

書 食 戸畑鑄物會社より提供せらる

III 戸畑鑄物會社(戸畑) 午後一時——午後二時半

IV 東海鋼業(若松) 午後二時——午後四時

V 帝國鑄物(若松) 午後四時——午後五時

散 會

第 二 班 午前八時までに淺野小倉製鋼所事務所に參集之事

I 淺野小倉製鋼所(小倉) 午前八時——午前九時半

II 東京製綱(小倉) 午前十時——午前十一時

書 食 (櫻ビール工場内)東京製綱會社より提供せらる

III 櫻ビール工場(大里) 午後一時——午後二時

IV 明治専門學校(戸畑) 午後二時半——午後四時

V 旭硝子工場(牧山) 午後四時——午後五時

散 會

第 五 日 十一月二十五日(木曜日) 隨意見學

I 安川電機製作所(黒崎) 午前八時半——午前九時半

II 黒崎窯業(黒崎) 午前十時——午前十一時

III 九州製鋼(八幡前田) 午前十一時——正午〇時

午後十二時半九州製鋼繫船壁より小蒸汽船にて洞海湾視察枝光船溜著

(但し天候の都合により中止する事あるべし)

IV 安田製釘所(八幡) 午後一時——午後二時

V 王子製紙小倉工場(小倉) 午後二時半——午後三時半

VI 淺野セメント工場(門司) 午後四時——午後五時

筑豊炭田見學希望の向きに對しては下記プログラムにより筑豊礦業組合より案内せらる

十一月二十五日

午後〇時十五分 折尾發(車中にて附近炭坑の説明あり)

午後一時二十一分……………飯塚着

飯塚より自動車にて二瀬炭坑着 同坑見學

午後四時十分……………飯塚發

午後五時十七分……………折尾着